

日本友の会総会
ペタル・バシカロフ会長の講演（仮訳）

小泉大使閣下

尊敬するご列席の皆様

日本の友人の皆様

小泉大使の日本・ブルガリア外交関係再開５５周年に関する非常に興味深く有益な講演に対しまして感謝申し上げます。小泉大使のブルガリア・日本関係の発展と両国民の相互理解深化への貢献に深く謝意を表するものであります。講演では、政治、学術、文化面におけるブルガリア・日本関係発展の客観的構図が示されており、本テーマのもとこれからの対話を発展させることができると思います。

ブルガリアと日本は、この後ブラティスラフ・イヴァノフ教授からもお話いただくとおり、公式な関係において長い歴史を有しており、１９５９年に外交関係を再開してから、５５年となります。二国間において、伝統的な友好関係及び様々な分野での協力関係における確固とした基礎が築かれております。イヴァノフ教授より、未来においてより深い研究に対象に値する、我々の知られざる歴史について紹介していただけることと思います。

我々の関係において、注目すべきことは両国は、敵対関係にあったことがないということ、また日本は常にブルガリアにとって現代社会における共通の価値を共有する最重要のパートナーであったということです。日本は継続した支援を表明し、我々の国における民主主義プロセスの発展へ貴重な協力をしてくれており、我々はブルガリアと日本の間に争い事は存在しないと断言することができます。

これは、ブルガリア、日本の国家機関が行ってきた継続した政策の結果であることはいうまでもありません。すでに小泉大使も述べたように、両国間関係の確固とした基礎を築いた何世代にもわたるブルガリア、日本の秀でた代表の努力も決して小さいものではありません。その中には、東海大学の創立者松前重義教授、そのご子息、東海大学現総長の松前達郎教授もいらっしゃいます。

二国間関係の歴史の中で、経済、学術、文化面での協力において一つの新しく活発な段階の１ページとなった７０年代の意義を強調すべきであると思います。大阪万博へのブルガリアの参加、東海大学との協力は二国間の結びつきや協力関係の進展の基礎となる役割を果たしました。

地理的には離れているにもかかわらずこのような関係者及び東海大学のような力のある教育機関との活発な協力関係の知恵と努力により、二国間関係において貴重な資本が積み重ねられてきたといえるでしょう。このような財産を無駄にせず、特に経済分野における未来の更に実りのある結びつきや協力の基盤として次世代に伝えていくことが大事であるという小泉大使の意見に私も賛成します。

ご静聴ありがとうございました。